

学科紹介

社会福祉学科

社会福祉学科齋藤先生と学生のみなさんで

「相談援助の基礎」と題し座談会を開催。

学生のみなさんの思いや体験からざっくばらんな

意見がでる有意義なディスカッションとなりました。



1年 風晴 ひろ子さん



3年 島澤 亮輔さん



1年 木村 涼さん



1年 工藤 亜伊さん



3年 小笠原 功さん



3年 今野 咲さん



講師 齋藤 史彦



質の高いソーシャルワーカーを目指して

- 先生： みんなが考える質の高いソーシャルワーカーとは？
- 風 晴： 入学して初めて実習に行った時、高齢者施設で利用者の方に逆に分けられた思いでしたが、その時に積極的に話しかけコミュニケーションをとることが大事だと感じました。
- 島 澤： そう。そして分野にこだわらずに相手に頼られる存在になることが質の高いソーシャルワーカーなんだろうと思う。この人に相談したい、ここに行けば大丈夫という安心感が大事なことです。
- 今 野： 相手の気持ちを思っって対応することも大事だね。
- 先生： じゃあ、そのためにはどんなことが必要だと思いますか？
- 工 藤： 1年の実習報告会で、相手とのコミュニケーションが難しいという話が多くてました。話しかけるきっかけが必要かと。
- 島 澤： あいさつの後に言葉を付け加えてみたら、「おはようございます。ネクタイ買ったんですね。」とか。相手がうれしいと思ってくれれば距離も近くなるし。
- 木 村： 倫理・知識・技術を身につけることが必要だと思いますが、先輩方はいかがですか？
- 島 澤： そう思う。知識・技術に注目しがちだけど、倫理が社会福祉実践の土台だと感じる。これがないと、利用者との信頼関係も築けないと思う。
- 小笠原： 卒業研究に備えて成年後見制度を調べているけど、利用者に対して、また専門職として倫理責任の大切さを感じる。
- 今 野： 利用者の利益や権利を守るよう、知識や技術も大切だと思う。ソーシャルワーク演習ではロールプレイもするけど、知識あつての技術なんだと思った。実習では知識や技術面で足りない点に気がついたからもっと勉強したいと思う。
- 小笠原： 自分の目標をつかってスキルアップすることが大切だと思う。本を読んだり調べたりするだけでなく、学科内外のいろんな人と話をすることが、切磋琢磨の機会になるよね。
- 先生： 学科の全教員がみなさんを応援しています。質の高いソーシャルワーカーを目指してがんばってください。

研究科紹介

森永さんに研究の思いをインタビュー



栄養学科 助手 森永 八江(もりなが やえ)

生活健康科学分野平成22年3月修了 健康科学博士

「エチゼンクラゲの有効利用」を研究!

新しいアミノ酸配列を見つけ「ペプチド」を生成

- Q: 今回の研究ではどのような発見があったのですか？
- A: テレビや新聞のニュースでも話題となったエチゼンクラゲを粉末化し、酵素で分解してみたことから、従来ではできなかった新しいアミノ酸の配列を見つけることができました。
- Q: これはどのような事に役立つのですか？
- A: よく最近「ペプチド」という名前を耳にしますよね。その「ペプチド」をつくることができました。「ペプチド」は血圧を下げる効果で知られていますよね。
- Q: 研究にはご苦労もあつたんじゃないですか？
- A: はい(笑)。研究中は毎日が追い詰められているような苦しさでしたね。ただ、先生のご家族に良くして頂いたことがうれしかったです。先生のご自宅で午前2時くらいまで一緒にデータ解析をしていたのですが、奥様に食事を用意していただいたり、明け方に車で送ってもらったり。ほんと感謝です(涙)。
- Q: そのおかげですばらしい研究成果が生まれたのですね。最後に後輩のみなさんへ一言お願いします。
- A: 今回の研究成果を経て、ドクター(博士)の資格を得ることができ、新しいスタートラインに立つことができました。一歩懸命頑張ってみることで成果が出たことは何事にも代えられない嬉しさ、また自分自身の将来へつながります。ぜひ頑張ってください。